

## 達成目標の進捗状況

省力・低コスト技術の導入による 水稲栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	年度	基準値 (2017)	目標値 (2022)	最新値 (2020)
	実績値	35ha	95ha	176ha
酒米 (山恵錦) 栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	年度	基準値 (2017)	目標値 (2022)	最新値 (2020)
	実績値	6 ha	35ha	17ha
加工・業務用野菜栽培面積 (北アルプス地域振興局調)	年度	基準値 (2016)	目標値 (2022)	最新値 (2020)
	実績値	12.2ha	20ha	10.4ha
民有林の広葉樹素材 (木材) 生産量 (北アルプス地域振興局調)	年	基準値 (2012~2016年の生産量から算出)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	1,600m <sup>3</sup>	2,400m <sup>3</sup>	1,507m <sup>3</sup>
民有林のアカマツ素材 (木材) 生産量 (北アルプス地域振興局調)	年	基準値 (2012~2016年の生産量から算出)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	3,900m <sup>3</sup>	8,900m <sup>3</sup>	10,142m <sup>3</sup>
製造業の従業者一人当たり付加価値額 工業統計調査 (経済産業省)	年	基準値 (2015)	目標値 (2022)	最新値 (2019)
	実績値	9.3百万円	10.5百万円	16.3百万円 (速報値)

- 省力・低コスト技術の導入による水稻栽培面積  
高密度播種育苗(※)・精密田植えの増加に伴い、約5倍と大幅に増加
- 酒米(山恵錦)の栽培面積  
生産農家から生産しやすい点が高く評価され約3倍に増加
- 加工・業務用野菜栽培面積  
土壌病害(根こぶ病等)の発生等により前年比約18%減少
- 民有林の広葉樹素材(木材)生産量  
薪や木材チップ等の木質バイオマスの需要増により、前年比約2.7倍に増加
- 民有林のアカマツ素材(木材)生産量  
松くい虫被害の拡大防止のための積極的な更新伐や樹種転換により増加傾向が続く
- 製造業の従業者一人当たり付加価値額  
2019年も管内大手企業の業績好調を反映し、高水準で推移

※種籾を通常の1.5倍の密度で播種し育苗する技術

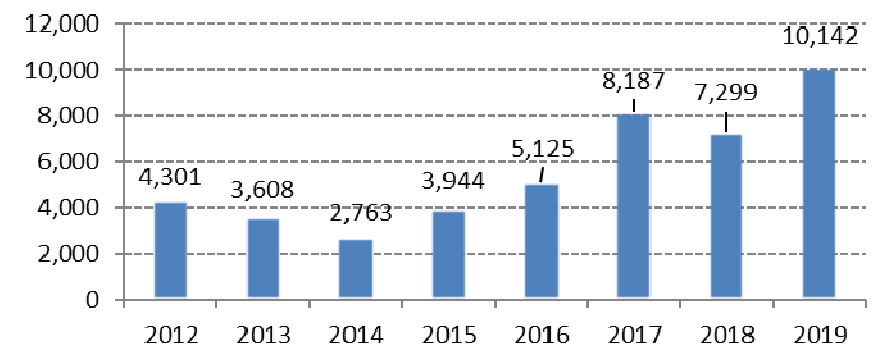
省力・低コスト技術の導入による水稻栽培面積

(単位: ha)

年 度	2017	2018	2019	2020
水稻直播栽培	15	7	4.3	2.2
高密度播種育苗・精密田植え	20	121	162	173.9
計	35	128	166.3	176.1

(北アルプス地域振興局調べ)

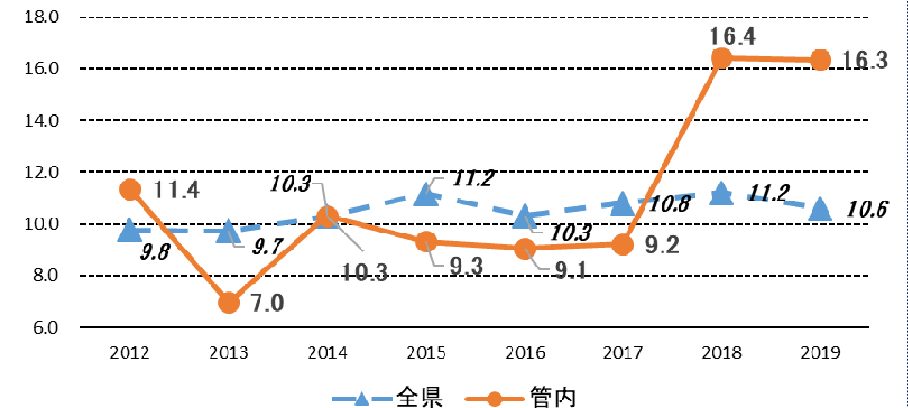
民有林のアカマツ素材(木材)生産量の推移



(北アルプス地域振興局調べ)

一人当たり付加価値額の推移

(工業統計調査)



## 【重点政策の評価】

- 達成目標は概ね順調に推移し、米の効率的な生産の推進、特色ある米づくりの推進、アカマツ材の利用促進等の取組の成果が表れている。
- 園芸作物の戦略的導入に向けて、収益性の高いワイン用ぶどう栽培への支援の成果が表れている。

## 【今後の取組方針】

## (農業)

- 高密度播種育苗・精密田植えは導入経営体の評価も高く地域に普及。引き続き、技術確立と専用機械の導入等を推進
- 管内の酒蔵と連携し、醸造適性に優れた「山恵錦」の栽培を促進。評価を高め、契約取引につながるPRを推進
- 加工・業務用野菜は土壌病害に対する技術的アドバイスのほか、収穫作業の機械化や新たな販売先の確保等を通じ、作付面積の拡大を支援
- 基盤整備や安定生産のための巡回指導会の実施など、ワイン用ぶどう栽培への支援を継続
- 北アルプス山麓ブランドでは、海外(台湾)に向けたブランド品等のPRと販路促進のほか、認定品の拡大や市町村と連携したPRを引き続き推進

## (林業)

- 広葉樹の資源量調査や板材の乾燥試験等に関するこれまでの結果を踏まえ、地上レーザーによる資源(量、樹種)の解析や生産モデルの検証を行い、収益性の高い広葉樹林業のビジネス化に向けた取組を推進
- 計画的な更新伐等により松くい虫被害の拡大を防止。「信州F・POWER プロジェクト」バイオマス発電施設の稼働など、再生可能エネルギーの拡大に伴う木質バイオマス用材の需要増にアカマツ材を活用

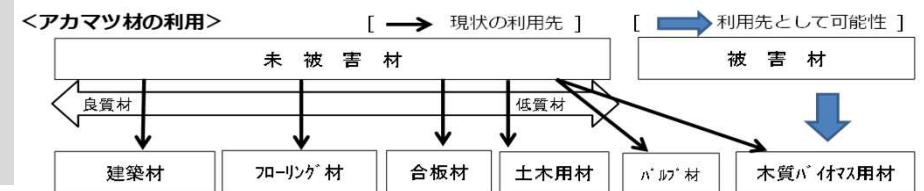
## (製造業)

- 下請型で経営基盤の脆弱な企業が多く、研究開発型への転換を促進
- 新型コロナウイルスの影響を受ける地域産業への支援を継続

主な園芸作物の栽培面積の推移(ha)

品目		2010	2019	2020
加工・業務用野菜	タマネギ	0	4.5	3.2
	キャベツ	0	4.4	3.9
	ジュース用トマト	1.8	3.8	3.3
	計	1.8	12.6	10.4
ワイン用ぶどう		17.1	26.0	28.7

(北アルプス農業農村支援センター推計)



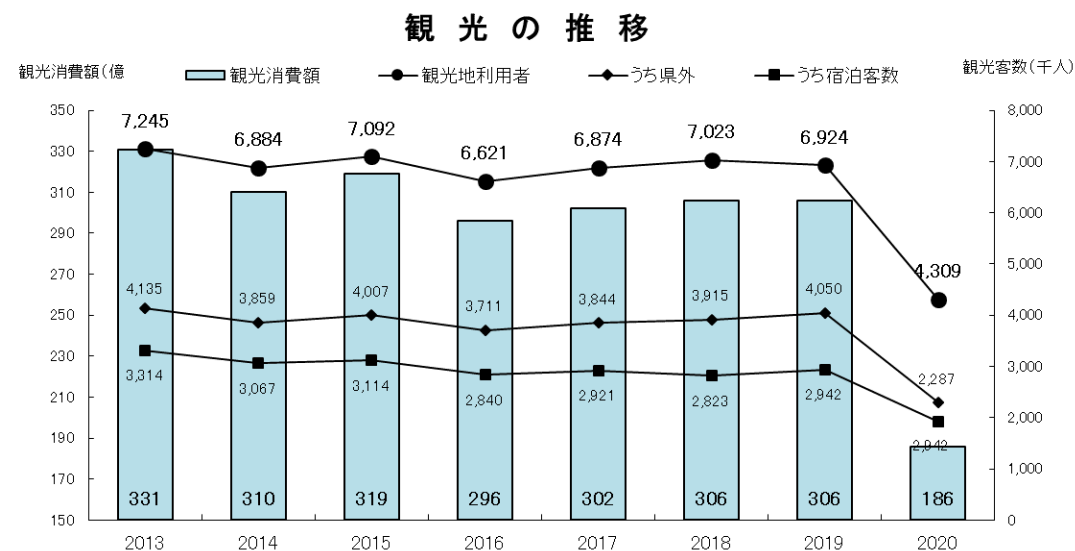
## 達成目標の進捗状況

観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	年	基準値 (2012～2016年の平均)	目標値 (2022)	最新値 (2020)
		実績値	702万人	724万人
グリーンシーズン（4～11月） 観光地利用者数	実績値	446万人	468万人	218万人

- 2020年の観光地延利用者数は431万人と前年から約4割減
- 2020年のグリーンシーズン観光地利用者数は218万人と前年から約半減
  - 新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少

### 【重点政策の評価】

2019年まで、グリーン期における集客施設のオープンやインバウンドの着実な増加等を要因に、観光地延利用者数は700万人前後の水準を維持してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、地域の観光業は大きな打撃を受けている。管内の観光事業者やスキー場関係者を対象とした意見交換会やセミナーの開催、感染防止対策への支援を行うなど、観光業の維持・復興に向けた取組を推進



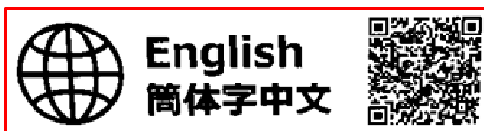
【今後の取組方針】

(観光振興)

- 新型コロナウイルス感染症の影響による社会変革を好機と捉え、感染防止対策をはじめ安全安心な観光地づくり、アフターコロナを見据えた観光振興策を推進。当面は国内客をターゲットとした情報発信・誘客を先行して実施
- HVTをはじめ市町村観光関連団体等と連携し、各種ツーリズム及びインバウンドの復興のための受入環境整備等を推進
- 管内市町村が共同で進める「北アルプス地域自転車活用推進計画」策定を支援
- 疎水や棚田等の農業資産を観光資源として活用
- 信州まつもと空港からレンタカーを利用する旅行者に対し、地域内の周遊促進を図るためのキャンペーンを実施

(山岳環境保全・街並み整備)

- 登山道整備は関係者と連携した着実な整備を推進
- 登山者に対し「登山マナーカード(コロナ対策バージョン)」を配布し、山岳環境保全、感染症対策に関する啓発を実施
- 高標高地における野生鳥獣対策(高山植物の保護及び登山者の安全確保)を関係者間で連携して実施
- 多くの観光客が訪れるJR白馬駅前の街並み整備のため、電線地中化を推進
- 有力な観光資源としての可能性を有する「氷河」ブランド強化・発信のため、引き続き新たな氷河の認定に向けた調査を支援



木流川案内看板(白馬村)



ドライブ観光パスポート  
「信州まつもと空港発  
レンタカーDeぐるっ得パス」



登山マナーカード

(裏)

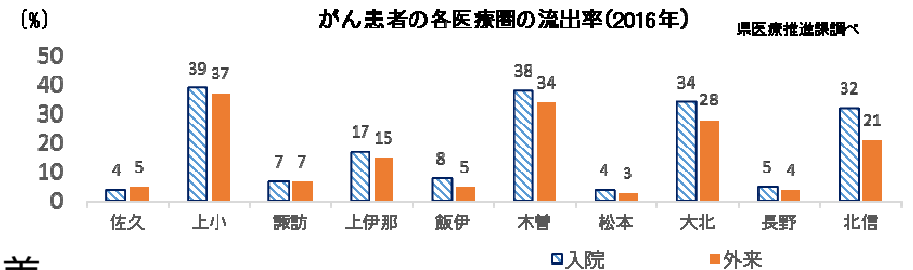




## 達成目標の進捗状況

がん患者の大北医療圏からの流出状況 (健康福祉部調)	年度	基準値 (2015)	目標値 (2022)	最新値 (2016)
	実績値	入院 35% 外来 24%	入院 31% 外来 21%	入院 34% 外来 28%
災害時住民支え合いマップ策定地区数 (大町保健福祉事務所調)	年度	基準値 (2017)	目標値 (2022)	最新値 (2020)
	実績値	159地区	230地区	180地区

- がん患者の大北医療圏からの流出状況 (最新値2016年度現在)
  - 入院は微減、外来は増加
  - がん専門病院の不足により松本医療圏への流出が続く
- 災害時住民支え合いマップ策定地区数は21地区増加  
(2018年度6地区、2019年度8地区、2020年度7地区)
  - マップの必要性に対する意識の違い等から取組に地域格差



### 【重点政策の評価】

- 管内のがんによる死亡率は県平均に比べて高水準で推移し、医療・介護人材も依然として不足しており、健診率向上に向けた啓発や人材確保等の取組の成果が十分表れていない。
- 心疾患による死亡率は県平均を下回った。生活習慣病予防対策を今後も継続し、今後の推移を注視したい。
- 災害時住民支え合いマップ未策定地区が多い地域に対する、関係機関が連携した重点的な策定支援の取組の成果が徐々に表れている。

管内市町村別災害時住民支え合いマップ策定地区数の状況

地区数	計	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村
	230	97	33	17	30	53
マップ策定地区数	~2017年度	159	97	27	17	18
	2018年度	6		3		3
	2019年度	8				2
	2020年度	7				2
	計	180	97	30	17	25
策定率 (2020年度末現在)	78.3%	100.0%	90.9%	100.0%	83.3%	20.8%

(大町保健福祉事務所調)

【今後の取組方針】

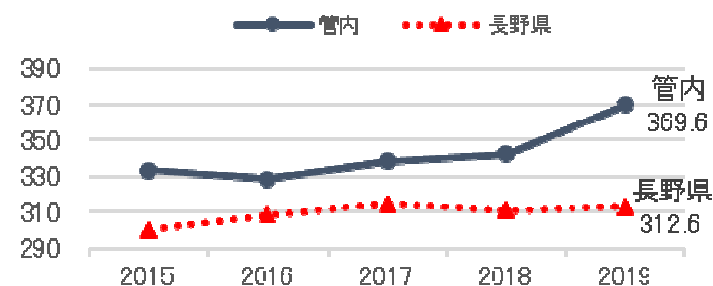
(保健・医療・福祉)

- 地域住民の検診率向上に向けた啓発など、地域の医療機関等と連携したがん対策を一層推進
- あづみ病院が「地域がん診療病院」に指定(2019年4月)。今後、圏域内での受療(がん患者の圏域外への流出の抑制)が見込まれる。
- 医療・介護職場の魅力発信など、新たな人材確保に向けた取組を推進
- 市町村と連携し、健診時の尿中ナトリウム測定など減塩意識の向上を図るための取組を推進

(防災)

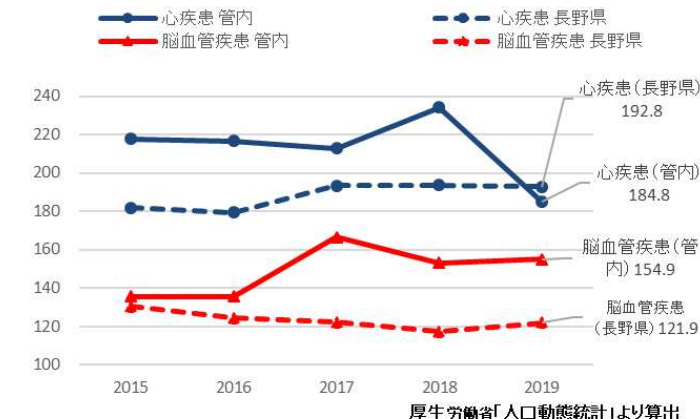
- 自助・共助・公助により地域防災力の向上に向けた取組を強化
- 市町村、社会福祉協議会及び県関係機関が連携して災害時住民支え合いマップ策定を支援
- 砂防施設は計画どおり31%の整備が完了。緊急輸送路の改良(2車線確保)はほぼ完了したことから、冬期の安定した交通確保を推進

がんによる死亡率の推移(対人口10万人比)

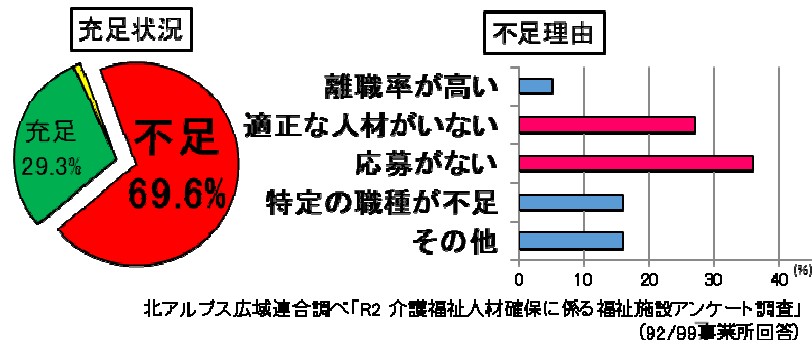


※死亡率の算出・・・以下の数値を用いて算出  
 死亡数、長野県人口：厚生労働省「人口動態統計」  
 管内人口：長野県毎月人口異動調査(10月1日現在)

心疾患・脳血管障害による死亡率の推移(対人口10万人比)



管内介護保険事業所における職員の充足状況及び不足する理由



管内の緊急輸送路の状況

<一次緊急輸送路> ※広域的な輸送に必要な主要幹線道路

路線名	指定区間	管内延長	改良率
(国)147号	(国)19号交差点～大町市一中交差点	15.0km	100%
(国)148号	大町市一中交差点～新潟県境	46.0km	100%
(主)長野大町線	(国)19号交差点～(国)148号交差点	16.0km	100%
3路線		77.0km	100%

<二次緊急輸送路> ※役場等の主要な防災拠点に接続する幹線道路

路線名	指定区間	管内延長	改良率
(主)白馬美麻線	(国)148号交差点～長野大町線交差点	9.4km	100%
(主)大町明科線	(国)147号交差点～(国)19号交差点	14.9km	100%
(主)大町麻績インター千曲線	(国)19号交差点～(国)147号交差点	11.6km	94%
(一)上生坂信濃松川(停)線	池田町池田～(国)147号交差点	1.8km	100%
(一)小島信濃木崎(停)線	大町市美麻北村～大町市美麻宮村	1.5km	100%
(一)川口大町線	大町市美麻中村～大町市三日町	4.9km	98%
(一)美麻八坂線	大町市美麻大藤～大町市美麻宮村 等	3.5km	100%
7路線		47.6km	98%

## 達成目標の進捗状況

移住者数 (企画振興部調)	年度	基準値 (2016)	目標値 (2022)	最新値 (2020)
		実績値	161人	224人

- 2020年度の移住者数は336人。前年比約1.6倍と大幅に増加

市町村窓口における「移住者捕捉アンケート」調査結果では、移住理由は「地方暮らし」が約35%を占めており、前年比12.2ポイント増加

### 【重点政策の評価】

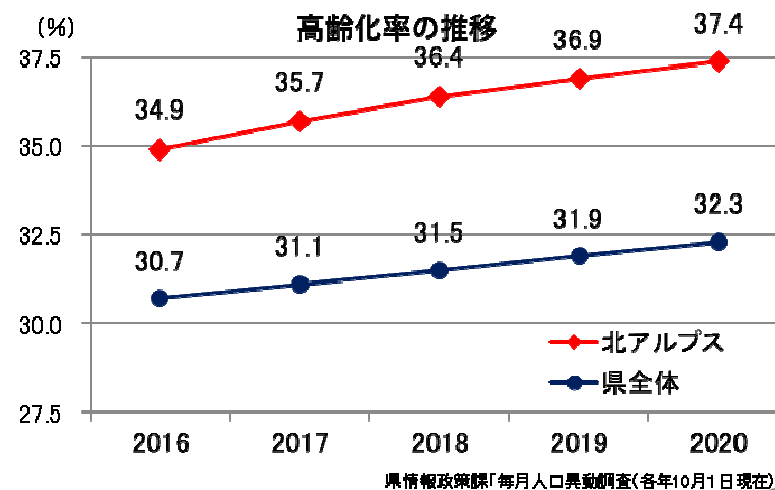
移住者数は増加傾向で推移し、北アルプス連携自立圏と連携した移住・定住推進の取組の成果が表れている。

### 【今後の取組方針】

(少子高齢化・人口社会減への対応)

管内の高齢化率(37.4%)は県全体(32.3%)を上回るペースで進展。若年層の転出により生産年齢人口の割合が減少。産業、生活環境、地域コミュニティの維持等多くの課題に直面

- 地域を支える人材の確保・若者の定着支援
  - 地元企業等へのUターン就職を促進
  - 地域の事業者間で仕事を組み合わせ、年間を通じた雇用を創出する特定地域づくり事業協同組合設立に向けて取り組む市町村を支援





- 地方回帰機運の高まりを的確に捉え、移住先として選ばれるよう、新たな暮らし方の提案や地域の魅力を発信
- 若者が地域への愛着を深め、参加者のつながりを創出する場「ウィキペディアタウン」(※)を開催

## ● 地域おこし協力隊員の定着支援

- 管内における隊員の定住率は7割程度の水準を維持。隊員の交流促進などの取組を継続して実施

## ● 高齢者の社会参加の推進

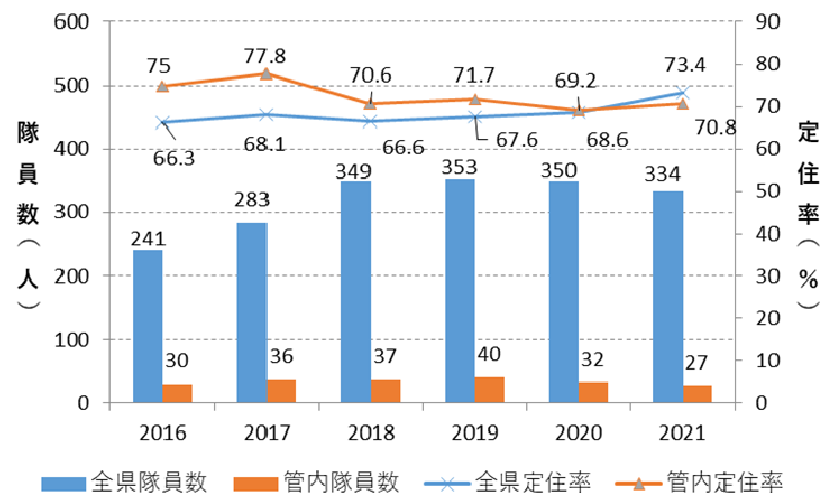
- 活動の場を求める高齢者と団体等とのマッチング、高齢者の居場所づくり支援など、高齢者の生きがいのつくりと社会参画を促すための取組を推進

## ● 外国籍住民が暮らしやすい環境の整備

- 世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外国籍県民は大幅に減少
- 新型コロナウイルス関連情報の多言語チラシ配布を通じた感染拡大防止の啓発など、外国籍住民が暮らしやすい環境を整備

※ 地域に存在する文化財等の情報をインターネット上のWikipediaに掲載するワークショップ型のイベント

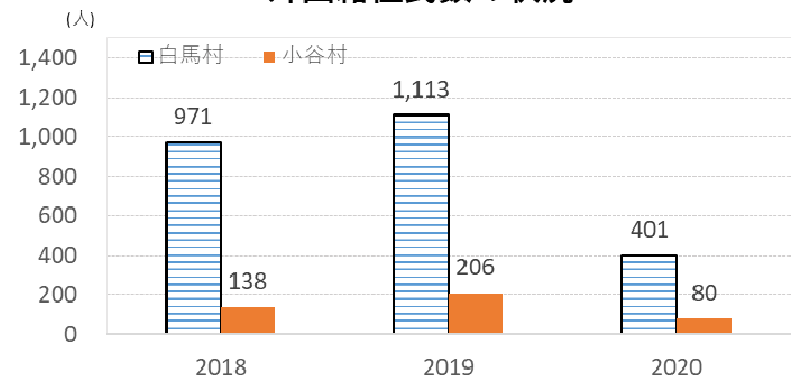
### 全県及び管内の隊員数・定住率



県地域振興課調べ

\* 調査時点：4月1日現在(※27のみ10月1日現在)  
 \* 隊員数：調査時点の在職隊員数  
 \* 定住率：H21制度開始以降の通算  
 \* H27年中に管内すべての市町村で隊員制度を導入

### 外国籍住民数の状況



村人口に占める外国籍住民の構成割合

(単位:%)

	2018	2019	2020
白馬村	10.3(1位)	11.7(1位)	4.6(3位)
小谷村	4.6(4位)	7.0(2位)	2.9(8位)

※( )は県内順位

外国人住民統計 (各年12月現在：国際課調)

## 取組の進捗状況

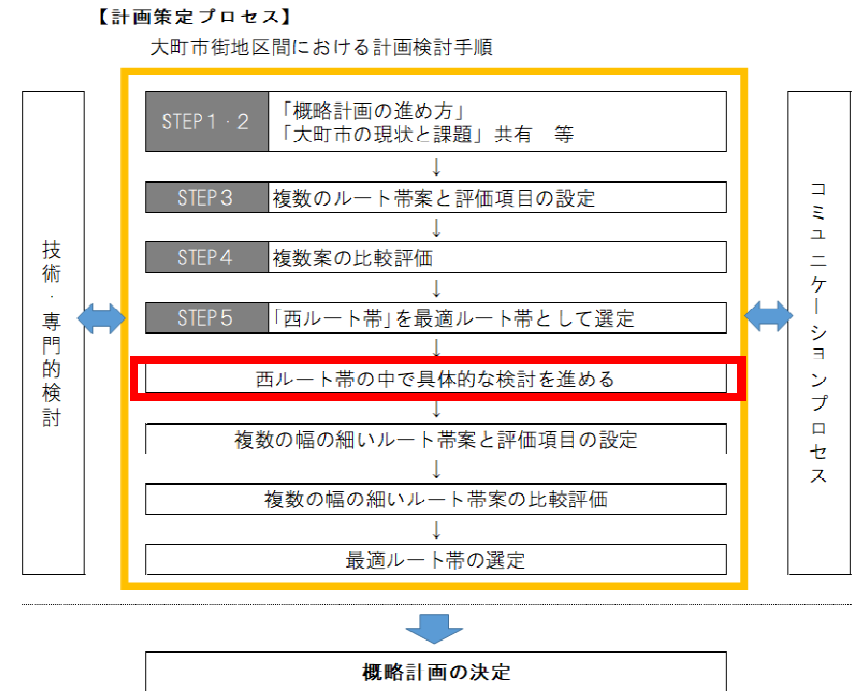
- 大町市街地南の現道活用区間、大町市街地区間等の調査
  - 国の「計画策定プロセス」によりH28年度から検討開始
  - H30～R2年度 <STEP 1～5>  
地域住民との意見交換会を計27回実施
  - 令和2年2月 <STEP 5>  
西ルート帯を最適ルート帯として選定・公表
- 国道148号小谷村雨中バイパスの整備  
1、2号トンネル施工中。橋梁下部工完成
- 国道148号白馬村白馬北工区の整備  
用地補償契約完了（H30年度）し、本工事着手

### 【重点政策の評価】

大町市街地区間のルート帯選定など整備計画の決定に向けた検討は概ね順調に進んでおり、地域住民との意見交換会の開催などコミュニケーションプロセスを重視した取組の成果が表れている。

### 【今後の取組方針】

- 大町市街地区間の調査  
令和2年度から細いルート帯の検討に着手
- 小谷村雨中バイパスの整備  
1,2号トンネルの完成、スノーシェルター・BOXカルバート部に着手
- 白馬村白馬北工区の整備  
雨中バイパストンネル工事の残土を活用した造成工事を実施



【小谷村雨中バイパスの整備】



施工状況（2020年5月現在）



完成予想図

長野県内の松本糸魚川連絡道路の状況と整備方針

